

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4772100048		
法人名	社会福祉法人 与勝福祉会		
事業所名	グループホーム やすらぎの家		
所在地	沖縄県うるま市勝連南風原4914番地		
自己評価作成日	平成 26 年 9 月 24 日	評価結果市町村受理日	平成26年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4772100048-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は小高い丘の上に位置して、金武湾を見渡せる風光明媚な場所にあります。家庭的な雰囲気や環境を大切に、安心安全に暮らしています。 施設内での年中行事が多彩で、家族や地域の方々との交流の場となっています。 利用者様の希望や状態に応じて、個別ケアを実践しており、ドライブ等の外出や買い物支援を行っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人他施設と同敷地内に立地し、法人が市の委託を受け開設している「高齢者相談センター」を介して地域の福祉ニーズを担うべく、事業所への入居や「認知デイサービス」の利用に繋げている。法人との連携を図り、職員研修、災害時協力、緊急時対応等で入居者や家族、職員が安心を得ている。地域住民との関係継続を図る為、地域ミニデイや地域行事等に入居者が参加できるよう支援している。入居者の意向に沿った外出支援に取組み、ふるさと訪問も恒例となっている。また、事業所の行事等には家族会が協力し、毎年運動会等も実施されている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成 26年 10月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を昨年見直し、ケア目標を共有して毎日朝のミーティングで唱和し実践しています。	理念の見直しを職員から提案を受けて検討し、4項目から3項目とし、よりポイントを絞って実践できるよう変更している。職員は毎朝の唱和は「心の引締め、日常のケアを振り返り」の機会と捉え、入居者に対し「気持ちに寄り添う」「笑顔を多く」「安心して不安なく」のケアが実践できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会より年中行事の情報を収集し、行事の際には地域との交流を深めています。	事業所は地域から離れ、入居者と地域住民等の交流が厳しい環境ながら、自治会の加入はありませんが、地域の自治会とは常に連携し協力体制を構築しています。市の高齢者相談センターの委託を受ける等行事や福祉ニーズを把握し、事業所と地域を繋げている。入居者が地域行事を見学、児童が法人敷地内で地域伝統の「道ジュネー」を披露する等交流の機会をもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年の世界アルツハイマーデーには、認知症介護街頭キャンペーンに参加して、地域の人々へ認知症の方の理解等の啓蒙活動に努めました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、入居者や家族、地域の方々が参加して開催しています。事業所での実践状況を報告したり、会議の中での意見をとり入れてサービスの向上に努めています。	会議は偶数月で開催し、行政の毎回の参加や、6月からは利用者も参加している。構成委員の任期満了後の委員委嘱を中止し、会議の議題に添う助言者を選し、次回の会議では「市の災害について」消防署関係者を招く予定としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にはうるま市の担当者も参加しており、事業所の実践状況報告を行ったり、地域密着型サービスの担当職員とも連携をとっています。	事業所運営で認知デイや空き状況等を窓口で担当者と情報交換をしている。運営推進会議には担当課職員が参加し、地域高齢者への適切な介護支援や、高齢者相談センターの重要性等を議論している。事業所は「認知デイ」利用者の、介護者(家族等)の身体的事由(入院等)による一時的宿泊のニーズに応えたいとし、今後の課題としている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケア、その行為を理解するように心がけています。利用者の行動を抑制することがないよう、個別ケアについての対応を話し合い実践しています。	身体拘束については「身体拘束排除に関するマニュアル」を整備し、職員は事業所内での勉強会の他、管理者等からケアの場面で「言葉使い」等の注意を受けている。法人内の職務会で2か月毎に「各事業所の状況、経過報告等」があり、職員が交替で参加している。事業所方針を書面等で家族には伝えている。	

沖縄県(グループホームやすらぎの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、事業所定例会で職員の共通理解に努め、利用者の状態把握をおこなっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在当事業所で該当する利用者はいませんが、事業所内勉強会で権利擁護等の制度について情報共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には、契約書や重要事項説明書の説明を行い、利用者やご家族からの疑問にはその都度答え不安の軽減に努めています。解約時は、その後の行先等を支援し納得の上で解約をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が、施設職員へ意見、要望が伝えられる様、管理者・職員から声掛けするよう心掛けています。又運営推進会議でも希望を確認しています。	入居者自身から直に意見や要望を聞くよう努め、食事メニューや外出に反映している。家族会が毎年総会を開催しているが報告が主で、議事録が整備されず、意見や提案等は確認できていない。家族からは面会や行事参加の機会に聞き、在宅訪問時は必ず職員が同行する事等を実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の定例会やケア会議の際、職員の意見や要望を聴き、定例の管理者会議等で事業所職員の意見として、管理者が提案しています。	毎月の定例会議で、行事、日課、個別ケア、その他について話合っている。職員の意見で「入居者の手工芸作品の展示する機会」として「カフェレストラン」を開店、入居者の手工芸作品を展示して来場を呼び掛け交流している。非常勤職員は年1回更新に合わせ面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議や理事の業務調整会議等で、職員が働きやすい職場環境整備に向けて取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会は、研修委員会が中心となり定期的実施されています。法人外の研修についても職員が参加できる機会の確保に努めています。		

沖縄県(グループホームやすらぎの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会へ加盟しており、研修会や情報交換会へも参加しています。研修終了後は研修報告会を設け情報共有を行い、サービスの質の向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族との関係、又その関わり方や思いや希望を傾聴し、介護計画に取り入れています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族が希望する暮らし方を聴きながら、事業所での暮らし方や個々の意見を大切にしている事を伝え、その都度相談しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の気持ちを確認して、ケース会議で職員間の情報共有と統一したケアが行えるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・洗濯物たたみ・掃除やゴミ出し等は声掛けし、本人のやりがいを大切にしながら一緒に行うようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年中行事には、利用者と家族が過ごせる機会をもてるようにしています。自宅への外出を希望する利用者には、家族の協力も得ながら職員と一緒に出席しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで通り地域のミニディサービスへ参加して、地域との交流を継続できるよう支援しています。	入居者への支援は家族の情報を基に実施し、追加される情報もきちんと活かしている。知人の訪問を2か月に1回受けている入居者は、毎年年末には年賀状を書いて送っている。事業所は数名の入居者の、生まれ育った地域への「ふるさと訪問」を継続して支援している。	

沖縄県(グループホームやすらぎの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全員が利用者同士の関係を把握して、生活やレク活動でも利用者同士の関わりが和やかに過ごせるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、本人や家族からの相談は継続しておこない、現在担当している介護支援専門員と連携しながら支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人に職員の担当がいるので、個別の関わりの中で利用者の思いや希望を把握し、個別のケアに努めています。	理念にある「人としての尊厳を守り」を実践、休みたい時に休む、食べたい時に食べる、入居者の意向を尊重して支援している。職員体制を担当制にした事で1対1での関りが増え、把握困難な入居者の思いをくみ取れる機会ともしている。入居者の生活スタイルでもある、新聞やコーヒーを用意し提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で、利用者一人一人の生活歴や生活環境を把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で気づいたことや情報共有の必要な時には、ケア会議や連絡帳、業務日誌等を活用しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中での課題や支援の方法について、本人や家族の意向も確認しながら、担当職員やサービス計画作成者を中心にケア会議をもち、介護計画を作成しています。	介護計画は6か月毎に見直す等を文書で謳い、アセスメントは年に1回、モニタリングは6か月毎、担当者会議は入居者、家族も参加で実施しているが、計画は状態に応じた随時の見直しはなく、年に1回更新時となっている。計画に沿った実施状況が確認できず、サービスを実施しているが計画に位置付けがない等整合性が図れていない。	入居者や家族の意向を反映した個別計画の作成と、状態に応じた計画の随時の見直し、計画に沿ったサービスの実施状況が確認できる記録等の取組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の状況を業務日誌に記録して、ケア会議では担当職員を中心に、職員間の情報共有に努め実践しています。		

沖縄県(グループホームやすらぎの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や家族の希望に対して、訪問診療での看取りケアを取り組み、医療との連携を図っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のミニディサービスへ職員も同行し、地域の情報収集に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で、入居前からの病院で継続した主治医の診察を受けている方もいます。又、訪問診療をおこなっているクリニックと連携し、適切な医療が受けられる様支援しています。	入所後もかかりつけ医を継続し、受診は家族対応を基本としているが、職員対応や同行支援もしている。受診時には入居者担当の職員が状態等を記録した書面を提供している。結果等は口頭や書面で受け職員間で共有している。訪問診療も受け入れ医療機関と連携を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の支援の中で気になる医療面については、法人内の看護師にアドバイスを受たり、訪問診療時に看護師へ相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際には、退院に向けて病院の関係者と情報交換や相談を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し通院が困難になった時には、本人や家族の意向を確認しながら、訪問診療を検討し医療との連携を図っています。現在終末期に向けた取り組みを行っています。	事業所として重度化や終末期に向けた方針は明文化されていないが、入居者や家族が事業所での終末期を希望する場合は対応等について話し合いがもたれ、医師等関係者連名の同意書で家族等の同意を得ている。管理者は終末期ケアへの職員研修を課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での救急救命講習会へ全職員受講しており、利用者の急変の際対応しています。		

沖縄県(グループホームやすらぎの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火避難訓練を年二回実施しており、うち一回は夜間想定での訓練を行っています。地域に住んでいる法人内職員やその家族にも協力依頼をしています。又、今後地域の自治会の自衛消防団と協力体制の調整段階です。	年2回消防署協力等で避難訓練を昼夜想定で実施しているが一部実施記録のもれがあり1回は確認できていない。災害時マニュアルや備蓄については法人の協力を得て整備している。訓練への協力は自治会等から参加の意見もあり図られつつある。	災害避難訓練を年2回以上地域と協力し計画等に沿い実施できるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	やすらぎの家の介護理念の中にも、入居者の尊厳を掲げており、言葉使いを丁寧にし、時には方言を交えて会話するように心がけています。本人の主張を否定せず傾聴するケアを行っています。	理念にも入居者の尊厳を掲げ、運営規定には「利用者の権利」が謳われている。入居者一人ひとり声かけや対応が異なることを職員は理解し対応している。共用空間からトイレが真正面の構造の為、プライバシーの確保に、暖簾やカーテンの長さ、ソファの配置等で工夫に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別の関わりの中で利用者の思いや希望を把握し、自己での決定を促すようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者の希望に沿って、自宅へ外出したり、買物に出かける等支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の着替えの際、又外出時にも本人の希望を聴きながら、身だしなみの支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスに配慮しながら嫌いな食べ物は極力取り除き、美味しく食べれるようにしています。下ごしらえ、かたづけは得意な方が行っています。	献立は入居者の希望を聞き、法人栄養士が立案した献立を参考に、昼食は専任の職員が、朝夕は職員が交代で3食事業所で調理している。入居者は、食材の買いだしから食器洗い等、食事に関する一連の作業に給食帽とエプロンで身だしなみを整え参加している。職員も一緒に同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量を把握し、水分量が少ない方へは24時間体制で支援しています。受診等で定期的に担当の医師へ状態報告を行い、検査結果などで指示を頂き栄養状態の管理に努めています。		

沖縄県(グループホームやすらぎの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にそった口腔ケアへの促し、声掛けの仕方にも注意しながら自主的に行う事ができるよう支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗の原因を観察し、ケア会議をもち本人の思いと家族の協力を得ながら自立支援に取り組んでいます。	入居者の多くが自立して日中はトイレを使用している。外出時はパットを活用したり紙パンツに変えて不安軽減に努めている。100歳を超える入居者の、生活リズム、排泄パターンや尿意を訴える言語等を職員間で共有し、常時綿パンで過ごせるよう支援している。生活動作や立位訓練で下肢筋力を強化し自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、水分摂取量、便の状態を確認。本人の意見も聞き個々の便秘解消法なども行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き、その時間に入れるようにしています。声掛けの仕方とタイミングを大切にしています。	入浴は週3回を基本とし、入居者の希望の日時で個浴、夏はシャワー浴を多くの方が好まれ支援している。冬場は浴槽を希望する入居者等、個別の意向に沿い、同性の介助希望には同性で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後にはテレビを鑑賞したり他者との雑談を楽しみながらリラックスできる環境を提供しています。生活習慣を大切にして、好きな時間帯に寝る事ができます。希望があればクッションを使用し気持ちよく寝れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の目的、作用、副作用は理解しており、状態の変化を観察しています。薬の管理は職員で行い、飲む前に薬の目的等を伝えていきます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや洗濯物たたみなど、個々が自分の役割と自覚して取り組んでいます。担当を中心に本人の要望などを情報収集し外出や買い物等の個別支援をしています。		

沖縄県(グループホームやすらぎの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞き、計画を立てて外出しています。突発的な要望にも職員が付き添って出掛けます。家族の要望や本人の気持ちを聞き、いつでも外出できるよう支援しています。	日常的には施設内の散歩や法人内のイベント等への参加、見学に出かけている。外出の機会は多く、買い物、ドライブ、ハーリー等の見学、又、家族と一緒にも出かけている。ふるさと訪問や入居後も地域のミニサービスに通う方、定期的に職員同行での自宅訪問等の外出も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持つ事で本人が安心した生活を送れるよう、家族の了解と協力を得て管理できる方は所持しています。買い物があれば自分で支払う事ができます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得ているので、いつでも電話を掛ける事が出来ます。家族から本人へのおやすみコールも支援しています。毎年、年賀状を自筆で書いてもらい送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の飾り付けの際には利用者の好みや意見を取り入れて模様替えを行っています。利用者に確認しながら照明の明るさを調整したりします。居間が狭いのでソファを追加することができない状況です。	共用空間はたくさん入居者の手工芸作品で装飾され、天井から吊るした籠には季節の飾りもある。入居者はソファや好みの場所の椅子に腰かけたり、テレビを楽しんでいる。毎朝の換気と、空気清浄機で健康管理に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合う方、合わない方の状況を把握しているので自然に誘導し、安全で楽しく過ごせるように配慮しています。畳間のソファベッドでは、いつでも休む事ができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人自ら居室の模様替えを行う方もおり、それが安全かを確認し、極力本人の希望を受け入れた環境作りにも努めています。自宅で使われた物の持ちこみができる事を伝えています。	居室内は入居者個別に馴染みの物があり、電気製品の他絵画を楽しめる方は絵の具等、手工芸が好きな方は裁縫セット等を持ち込んでいる。写真付きの氏名や暖簾等で認識出来るようにしている。昨年度の契約時からは個別物品チェック表を作成し持ち物を管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーで、居室からトイレに手すりを設置していますが、その他にも必要な個所があります。居室内は家族写真などを飾り、必要な方には家具等に名前を書いて自室である事を認識できるようにしています。		